学習支援連携委員会の動きと学習支援活動の展開

1 2015年度を振り返って

2015年度の学習支援活動開催数は333回、参加者数は延べ約1万4千人となり、前年度に引き続き充実した支援を行った。下表に含まれる支援以外にも、間接的な支援として中央図書館セルフツアー（通年開催）、新入生歓迎イベントLibrary Week（4月、10月開催）、ビブリオバトル（5月、12月開催）などのイベントを開催した。春と秋には図書館主催の講習会である図書館情報検索ワークショップを実施した。各キャンパス図書館・教員図書室でも、各種データベース講習会が開催された。

学生ボランティアの活動サポートも3年目に入り、活動体制を固めつつ、ツアーや展示、資料活用記事の連載など、学生視点でのさまざまな企画を実施した。

学内連携もますます広がってきている。イベントの共同開催や他部署開催イベントへの協力、職員研修への参画、大学広報への協力のほか、他部署の協力を得て、新たな動画コンテンツの制作・公開を行った。

さらに、ラーニング・コモンズとしての図書館の利用実態を把握するために、館内利用動向調査を実施し、図書館ならではの学習スペースのあり方の検討を始めている。2015年度はこれまで実施してきた活動に加えて、動画コンテンツなど教材の整備、館内利用動向調査など学習支援活動の幅を広げた年となった。

2 授業支援の実施

学習支援活動全体の開催数333回のうち、学部・研究科単位および個別の授業・ゼミ単位での授業支援は240回で、前年度を上回る開催数となった。これらは開催数全体の72%を占め、学習支援活動の中心になっている。受講者数では、延べ7,995人の学生が授業支援を受けたことになる。

学術院別にみると、政治経済学術院では73回、文学学術院では75回開催され、群を抜いて多い。これは政治経済学部の「基礎演習」（67クラス）、文化構想学部・文学部の「必修基礎演習」（60クラス）という大規模な授業支援を含むためである。受講者全体のうち4,045名が政治経済、文学学術院の受講者になる。その他の学術院では、法学、理工、社会科学総合、人間科学、スポーツ科学の各学術院で開催数が増加した。また、Library Weekのトークイベントがきっかけとなり、グローバルエデュケーションセンターの授業への支援が新規に行われた。

授業支援の内容については、学習の動機づけを説明する「ARCS動機づけモデル」を応用した授業評価や、ルーブリックを使用した事後課題の採点などの新しい試みも行われた。

上述の政治経済学部「基礎演習」、文化構想学部・文学部の「必修基礎演習」において、2013年度から、学生がスタンプを集めながら自分で館内をめぐるセルフツアー方式で図書館を知ってもらうこととし、両学術院以外の授業でも利用されている。授業での利用のほか、個人での参加者もあり、2015年度のセルフツアー参加者は延べ2,410人におよんだ。

アカデミック・リエゾンと呼ばれる、学習支援活動に携わる図書館職員は、2016年4月現在で総勢28人である。セルフツアーの活用などにより、リエゾン1人あたりの支援回数は落ち着いてきている。その一方で、支援の幅が広がり、新たな取り組みの企画や準備の業務が増えてきている。

2015年度学習支援活動

	学生等参加者数（人）	図書館職員講師数（人）	図書館職員サポート員数（人）	開催数（回）	開催当たり要員数（人）
1.学部新入生向けオリエンテーション	4,668	12	21	11	3.0
2.大学院新入生向けオリエンテーション	551	10	8	11	1.6
3.教員向け各種講習会（オリエンテーションも含む）	3	1	1	1	2.0
4-1.授業支援：学部・研究科単位	6,543	93	210	179	1.7
4-2.授業支援：個別授業・ゼミ対応	1,452	59	88	61	2.4
5.就職支援	266	0	19	11	1.7
6.図書館主催企画など	481	41	97	59	2.3
合計	13,964	216	444	333	2.0
2014年度	13,383	229	386	313	2.0
2014年度との比	104.3%	94.3%	115.0%	106.4%	

3 図書館主催イベントの開催

1）Library Week

2015年度も例年通り新入生歓迎イベントLibrary Weekを春と秋の2回開催した。

(1) 春のLibrary Week

春のLibrary Weekは2015年4月13日から17日の会期で、中央図書館、戸山図書館、所沢図書館の3館で合計12のイベントを実施した。

春のLibrary Weekにおいて特筆すべきは、展示企画の豊富さと、コンサートにおいて学内他部署の職員から協力を得られたこと、学内他部署との連携イベントを開催したことであろう。展示は各実施館によって、学生主体、教員主体、図書館主体といった具合に、全く違った色合いの図書が紹介されており、多様性のある内容となった。

学内他部署との連携イベントは今回初めての試みであったが、文化企画課との共催で、同時期に学内で開催されていた「真実を伝え続ける絵画―アウシュヴィッツに生きたM・コシチェルニャック展―」に合わせて、ホロコーストに関するドキュメンタリー映画「夜と霧」の上映会を実施し、好評を得た。

コンサートでは、学内他部署の職員が出演するとあって宣伝効果が高まり、教員や学生以外の学内者も多く鑑賞に訪れた。結果として、鑑賞後の展示やその他の企画の観覧につながり、図書館の取り組みがより一層学内に浸透する良いきっかけとなった。



コンサート
（中央図書館）



トークイベント
「早稲田の
たからもの」
（中央図書館）

(2) 秋のLibrary Week

秋のLibrary Week（2015年10月5日～10月9日）の特筆すべき点としては、図書館職員や教員が館蔵資料の価値を語るトークイベント「早稲田のたからもの」において、実施後に教員からの要望で、貴重書を使った授業やオムニバス形式の授業に図書館職員が講師として招聘され、授業との連携につながる結果となったことが挙げられる。

2015年春　Library Week実施企画一覧

主催	企画	概要
中央図書館	セルフツアー	参加者が館内10か所に設置されたポイントをめぐりクイズに答えるスタンプラリー形式のツアー（日英対応）
	ブックトーク	教員・先輩学生が新入生にぜひ読んでほしい本について語るトークイベント
	ライブラリーコンサート	館内にて学生サークル（弦楽、口笛、パントマイム）ならびに本学職員（ヴァイオリン＆ギター）による実演
	学読ウォッチ～キミが一番使いやすい図書室を見つけよう！	図書館ボランティアスタッフ「LIVS StART班」による学生読書室ツアー
	展示「学生推し本～ラウンジが宇宙になる～」	図書館ボランティアスタッフ「LIVS 読書サポート班」による展示
	展示「本と旅」	学生・教職員による「本と旅」にまつわるエピソードと図書の紹介
	展示「新入生に贈る一行」	教員が一冊の図書から選んだ新入生へのメッセージとなる印象に残る一行を展示
	ライブラリークイズ	Web上での図書館資料・サービスに関するクイズ（日英対応）
	ドキュメンタリー映画「夜と霧」鑑賞会	文化推進部文化企画課と共催のドキュメンタリー映画「夜と霧」上映会
戸山図書館	セルフツアー	参加者が館内5か所に設置されたポイントをめぐるスタンプラリー形式のツアー
	展示「新入生にすすめる本」	文学学術院の教員に推薦していただいた図書を推薦文と共に展示
所沢図書館	展示「読んでみよう！この一冊」	人間科学部・スポーツ科学部の教員に推薦していただいた図書を推薦文と共に展示

(3) 今後の展開

2013年度から開始したLibrary Weekも、通算6回の開催となった。回を重ねることで、館内の連携体制も一層進み、運営も安定してきた。また、先述のように、Library Weekのイベントをきっかけとして、図書館に足を運ぶ人が増えたり、図書館に新たな要望が寄せられたりするようになったことからも、図書館利用の促進につながる効果的なイベント企画が実現できているといえよう。

今後も図書館および図書館職員の知を結集し、学生・教員・他部署との連携を模索しながら、全学的な図書館利用の促進につながる企画の考案・実施に励んでいきたい。



理工展×図書館
(理工学図書館)



君の「？」に答えよう
(所沢図書館)



新入生にすすめる本
(戸山図書館)

2) 知的書評合戦ビブリオバトル

中央図書館では、2013年から開催している読書推進イベント「ビブリオバトル」を下記のとおり開催した。

・春学期：2015年5月27日（水）15:00-16:00
・秋学期：2015年12月9日（水）15:00-16:00

ビブリオバトルとは、バトラー（発表者）が5分間でお気に入りの本を紹介し、バトラーと観客全員の投票によって、「チャンプ本」（一番読みたくなった本）を決定する書評合戦である。

春学期5名・秋学期6名の延べ11名のバトラーが参加し、5分間の持ち時間を最大限に使い、自分の言葉で本の魅力を訴えかけて、熱いバトルを繰り広げた。3分間のディスカッション時間では、観戦者から次々と質問が飛び出し、会場は熱気に包まれた。チャンプ本紹介者には、ローリー ゲイ図書館副館長（法学学術院教授）より、図書館長賞の賞状および副賞の図書カードが授与された。

例年どおり、早稲田大学生協ブックセンター、紀伊國屋書店新宿南店では、バトラー直筆POPと紹介本の展示にご協力いただき、本学の取り組みを広くアピールすることができた。

図書館ではビブリオバトルに限らず、ブックトークや、おすすめ本の紹介など、様々な読書推進企画を実施している。今後は、全国大学ビブリオバトルへの参加も視野に入れ、引き続き、利用者の読書欲を刺激するような企画を開催していきたい。

（参考）知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト
http://www.bibliobattle.jp/

2015年秋　Library Week実施企画一覧

主催	企画	概要
中央図書館	セルフツアー	参加者が館内10か所に設置されたポイントをめぐりクイズに答えるスタンプラリー形式のツアー（日英対応）
	展示 「アルドの遺伝子～学術出版の祖アルド・マヌーツィオ500年忌」	15世紀ヴェネツィアで活躍した印刷業者アルド・マヌーツィオの没後500年企画。15世紀の印刷から現代ルリユールまでさまざまな資料を展示。本学教員によるギャラリートークも実施
	手製本ワークショップ	講師の手ほどきに従って西洋の手製本を体験するワークショップ（協力：東京製本倶楽部）
	トークイベント 「早稲田のたからもの」	図書館職員・教員が「早稲田の宝」といえる館蔵資料についてその醍醐味を語る
	ライブラリーコンサート	館内にて学生サークル（琵琶、マンドリン）ならびに本学職員（尺八）がコンサートを実施
	ライブラリークイズ	Web上での図書館資料・サービスに関するクイズ（日英対応）
戸山図書館	書評バトル	学生から集めた書評を展示し、一番読みたくなった本を投票で決定
理工学図書館	理工展×図書館 ～本から広がれ！理工の環～	理工学術院の学園祭「理工展」とのコラボ企画。理工展員の学生によるお勧め本を理工学生読書室に展示
所沢図書館	展示 「君の「？」に答えよう」	所沢図書館に所蔵されている、タイトルに「なぜ」のつく本ばかりを集めた展示

4 図書館主催講習会

図書館主催で実施した各種講習会について報告する。

1）図書館情報検索ワークショップ

2015年度も例年同様、春学期と秋学期の2回開催した。春学期は6月から7月の3週間で、全21（中央図書館15、早稲田キャンパス2、戸山キャンパス3、所沢図書館1）コマ開催し、参加者数は延べ129人に上った。

プログラムは例年通りの基本的なものに加え、大学院生以上を想定したプログラムを設け、好評を得た。文献管理ツールRefWorksのプログラムは、戸山キャンパスに加えて、早稲田キャンパスのコンピュータールームでも開催した。

ライティング・センターとの協同ワークショップは前年度に続き、早稲田キャンパス、所沢図書館で1コマずつ開催した。資料の収集から文章の構想といった、レポート作成にかかわる一連の作業を体系的に学べることから、非常に好評を得た。

秋学期は11月の4週間で、全19（中央図書館12、早稲田キャンパス4、戸山キャンパス2、所沢図書館1）コマ開催し、参加者数は延べ87人となった。春学期を踏襲したプログラムに加え、留学生や英語話者向けに英語でのプログラムを6コマ開催した。所沢図書館ではライティング・センターと協同してレポート作成のワークショップを1コマ、早稲田キャンパス・戸山キャンパスではRefWorksのプログラムを6コマ開催した。

ワークショップも実施回数を重ね、各コンテンツの内容も確立してきたことから、2015年度はいくつかのプログラムを自学自習用の映像コンテンツとして編集・収録し、図書館ウェブサイトで公開した。ウェブ上に公開することで、学びたいときに学べるコンテンツとして学生の活用が望まれるほか、教員による授業教材としての利用などの展開も期待したい。

2）データベース講習会

高田早苗記念研究図書館、早稲田キャンパス各教員図書室では、春学期（6月末から7月初め）と秋学期（11月）に、日本法、英米法、ドイツ法、OECD資料、米議会資料、教育学文献、企業分析、有価証券報告書のデータベースセミナーを実施した。

戸山図書館では、他大学から進学した大学院学生向けに、図書館概要、文献の入手・閲覧方法を案内し、各種検索データベースの紹介・実習を行う文献収集ガイダンスを4月に開催した。理工学図書館では4月に理工系データベース講習会を合計2コマ、所沢図書館では12月に心理学・スポーツ科学系のデータベース講習会を開催した。

3）2016年度に向けて

これまで、新プログラムの設置、学内他機関との連携の継続、開催日程や広報の見直しなど、さまざまな工夫をしながら、利用者が主体的に参加し、学習できる機会を広げてきた。今後も、学習支援の機会を拡大すべく、適切な講習内容や開催数を検討しつつ継続開催していきたい。

5 ボランティアスタッフ LIVSの活動と学生協働

1）2015年度のLIVS活動概要

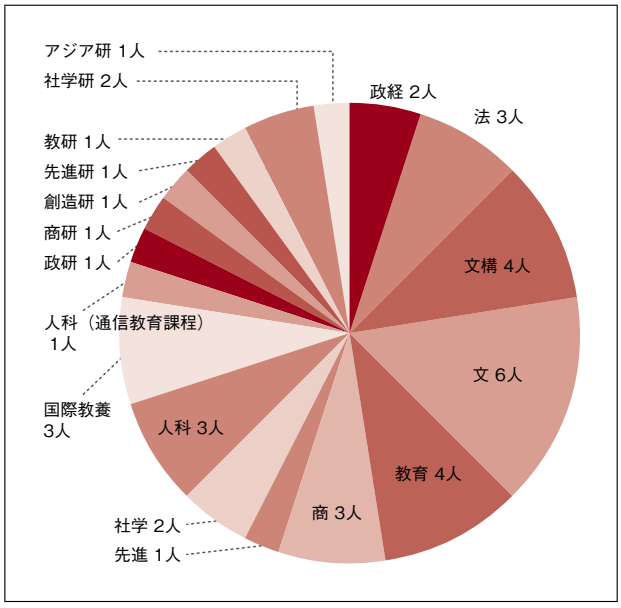
図書館ボランティアスタッフLIVSは図書館の公式ボランティア団体として、活動3年目に入った。

4月にはLibrary Weekと連動する企画を2つ実施し、好評を博した。6月には21名の新規メンバーを迎えて「2015年度体制」となった。これまで在籍期限の定めが無かったが、2015年度より6月～翌年5月の1年間を在籍期間と定めた。年1回の在籍調査でメンバーを確定することで、活動体制を固めつつ、職員の管理負担を軽減した。活動は、読書推進、図書館利用、図書館広報の3つを柱とし、読書推進では大学生協との共同展示、図書館利用では調査テーマに応じた図書館資料の探し方紹介記事の連載を行い、企画を成功させた。「学生協働ワークショップin東京2015」では会場校を務め、「脱出ゲーム」などの活動を中心としたLIVSの発表は他大学の団体から大きな反響を呼んだ。

2）スタッフ人数と構成

2016年1月時点の学生スタッフ総数は40名であった。うち学部学生は32名、大学院学生8名である。

学生スタッフ所属別構成（2016年1月時点）





ミーティングの様子

3）個別の企画内容

(1)「学生推し本～ラウンジが宇宙になる」(4/13～17・「Library Week」期間)

7人の学生がアニメや野球チームなど「自分の好きなもの」からマインドマップで発想を広げ、広がったテーマに関する図書館蔵書を4階ラウンジにて展示。

(2)「学読ウォッチ～キミが一番使いやすい図書室を見つけよう!」(4/14～16・「Library Week」期間)

新入生になじみの浅い「学生読書室」を学生スタッフが案内するツアー。学生読書室に詳しくなるためのクイズなどを出題した。

(3) めざせレポートマスター!(7/6、7/9・「図書館情報検索ワークショップ」期間)

グループワークを通して効率的な参考文献の探し方を学ぶイベント。2015年度はスマートフォン版WINEの利用をメインに企画した。

(4) 学生協働ワークショップ in 東京2015(9/16)

大学図書館の「学生協働」について、各大学の取り組みを更に活性化することを目的としたイベント。口頭発表では5団体、ポスターセッションでは17団体が、自らの取り組みについて発表・共有した。参加学生によるグループワークでは、学生それぞれが図書館での活動の中で課題だと感じている内容について活発な議論が展開され、今後の改善点などの発表を行った。本学は会場校を務め、LIVSメンバーは運営スタッフとして、事前の企画や当日の運営にも従事した。



学生協働ワークショップでの口頭発表の様子

(5) LIVS×Book Portal共同企画展示「2015年読書の旅」(12/15～2/5)

LIVSと早稲田大学生協ブックセンター公認読書企画委員会「Book Portal」との共同により、展示を企画。「推理ミステリー」「早稲田大学出身作家」「恋愛」「SF&ファンタジー」の4つのテーマをもとにし、さまざまな形式で、選定した本を紹介。

(6) 発掘!早稲田のBBN(11/9～2/3 全8回連載)

学生が自ら定めたテーマについて、研究書庫やバックナンバー書庫の資料を活用して調査したレポートをLIVS学生による図書館案内ブログ「りぶろぐ！」に公開し、図書館を活用した探し方や調べ方の例を紹介することを狙った連載企画。SNSでの広報を通じ、学内外から大きな反響を得た。調査・執筆の過程で、メンバーにとっても図書館での情報検索や資料収集の訓練となった。


2016年2月 3日 11:00

【発掘！早稲田のBBN】第8回 広岡浅子と大隈重信 ～早稲田にも輝くあさの光～

いいね！ 1092 Tweet チェック

<< 第7回 【発掘！早稲田のBBN】TOP

こんにちは。LIVSの古城です。『発掘！早稲田のBBN』は、第5回に続く投稿です！

突然ですが、朝の連続ドラマの「あさが来た」が大人気ですね。一部報道によると、毎週平均視聴率が20パーセント越えとか。

このドラマのヒロインのモデルは、明治時代に活躍した女性実業家、広岡浅子（1849～1919）です。浅子は明治時代に、炭鉱事業に乗り出す、銀行や生命保険会社を設立するなど、新しい時代にあった斬事業に乗り出していきました。そして、女子教育にも力を入れ、日本女子大学設立の際は中心的な人物として活躍しました。

ところで、浅子は、我らが早稲田大学の創設者、大隈重信(1838～1922)とも深い関わりを持つ人物でした。

反響の大きかった「発掘！早稲田のBBN」記事

(7) 中央図書館紹介ビデオ作成(3月)

学生生活によくあるシチュエーション別に、図書館の利用方法を紹介する「中央図書館活用法ビデオ」を作成し、2016年4月に公開した。

6 学内連携の進展

学習支援活動をより効果的に展開し、大学の中長期計画Waseda Vision 150に資するものとするためには、学内他部署との連携が欠かせない。2015年度も、授業支援における各学術院との連携はもちろん、さまざまな活動で学内連携を進展させた。

1）他部署との連携企画

キャリアセンターと共催の「企業研究に役立つ！データベース講習会」、ライティング・センターとの協同ワークショップを継続して実施したほか、新企画である文化推進部「Museum Week」、学生参画・ジョブセンター「ストレスバスター」では中央図書館を上映会の会場として提供した。国際コミュニティセンターとも、次年度の連携企画実施に向けて検討を進めている。

2）人事研修での連携

人事課との連携では、専任職員に対する情報検索研修を積極的に展開した。4月、9月には新入職員、12月には専任職員のうち希望者、3月には経営企画課・秘書課を対象とし、大学業務全般、各部署での業務や調査に役立つ図書館情報検索の研修を実施した。

3）広報に関する連携・協力

例年通り、広報課や学生生活課で発行する媒体で学習支援活動を取り上げてもらうとともに、企画記事への協力を行った。2015年度は、図書館としてもFacebookやTwitterからの情報発信の充実を図り、これらを大学公式SNSで随時紹介してもらうことで、数多くの反響を得ることができた。

4）動画コンテンツの制作・公開

大学総合研究センターの協力を仰ぎ、図書館情報検索ワークショップのオンデマンド化など、「反転授業」教材として利用できるコンテンツの充実を図り、公開した。図書館の活動の広報と同時に大学入試広報にも利用できるよう、新たに制作した図書館紹介ビデオ、図書館イベント映像の公開を行った。新入生に対しては、引き続きグローバルエデュケーションセンターの「わせだライフABC」にコンテンツを提供した。

5）ラーニング・コモンズ整備への参画

Waseda Vision 150のもと、多様な学習スタイルを可能とするラーニング・コモンズを創出する取り組みが全学で進むなか、より利用者のニーズに即した、図書館ならではのラーニング・コモンズを実現させるための計画を進めている。2015年度は、ラーニング・コモンズとしての図書館の利用実態を把握するため、中央図書館内の利用動向、オレンジゾーン（グループ学習と機器類の使用を認めるゾーン）の利用傾向の調査と分析を行い、その成果の一部を公開した※。

※詳細は早稲田大学図書館報「ふみくら」No.89（2016.3）に掲載の記事を参照。
http://hdl.handle.net/2065/47716

7 学習支援連携委員会の動き

2015年度は、学習支援連携委員会を2回開催した。各回の主な内容を以下にまとめる。

1）学習支援連携委員会（第17回）

9月29日に開催された学習支援連携委員会（第17回）では、図書館から2015年度春学期の学習支援活動報告、秋学期以降の活動としてLibrary Weekの紹介があった。

2）学習支援連携委員会（第18回）

2月2日に開催された学習支援連携委員会（第18回）では、図書館から2015年度の学習支援活動の報告と、2016年度の活動計画の説明があった。2016年度は、これまでの活動を継続するとともに、新たな試みとして、有償学生スタッフによる学習支援の取り組みに着手し、学内でのラーニング・コモンズ整備と歩調をあわせながら、図書館内の学習スペースの見直しを行っていくことが確認された。

学習支援連携委員会委員名簿

	箇所名	委員
1号	政治経済学術院	岡本　暁子
	法学学術院	土谷　彰男
	文学学術院	田辺　俊介（～2015.9.20） 田畑　幸嗣（2015.9.21～）
	教育・総合科学学術院	久野　正和
	商学学術院	小倉　一哉
	理工学術院	戸川　望
	社会科学総合学術院	北村　能寛
	人間科学学術院	百瀬　桂子
	スポーツ科学学術院	赤間　高雄
	国際学術院	ドゥテ　シルヴァン マッチュウ　ジュリアン
3号	教務部	古谷　修一
4号	グローバルエデュケーションセンター	藤田　誠
5号	図書館	深澤　良彰
	図書館	ローリー　ゲイ
	図書館	多田　智子（～2015.11.30） 荘司　雅之（2015.12.1～）
	図書館	湯川　亜矢